

平成 14 年度 看護研究交流センター研究部会の活動報告

研究部会長：加固正子

研究部会委員：杉田収 富川孝子 加城貴美子 吉山直樹 橋本明浩 大友康博

はじめに

研究部会の活動目的は、新潟県内の福祉文化特性に応じたヘルスケア・サービスに貢献できる地域課題研究とヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブ（資料庫）構築のために必要な研究を行うことである。また、研究の成果は関係する地域のサービス活動のための教材やリソースとして広く紹介していく計画であり、そのため県内の看護職との協働による臨床研究を積極的に進めていくものである。

平成 14 年度の地域課題研究には 3 つの分科会があり、具体的にはさらにそのサブテーマに分かれて研究を進めてきた。分科会名と研究のタイトルは以下のとおりであり、研究の詳しい進捗状況はそれぞれ研究報告書に述べた。

地域課題研究テーマ

(1) 豪雪地帯のヘルスケア・ニーズに基づく実践の優先度評価に関する開発研究

- 1) 豪雪地帯における「社会的援助を要する人々」のための保健医療施策と事業の再編方向に関する研究
- 2) 豪雪へき地医療福祉機関の機能維持に関する調査——特に医師・看護師の確保に重点をおいて
- 3) 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究
- 4) 地域ケアを支える住宅環境に関する研究

(2) 継続看護における連携システムの構築

- 1) 「在宅療養」「在宅ケア」に関する文献レビューから見た在宅療養支援のための課題
- 2) 県内病院の一病棟を退院した患者の実態調査
- 3) 療養病棟患者の退院後の在宅ケアを効果的に継続させるための退院指導に関する研究
- 4) 新潟県における精神障害者ホームヘルプサービスに関する研究
- 5) 救急外来看護師が感じている小児看護の課題

(3) ヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築に関する研究

- 1) 女性に関する教育プログラム開発に関する研究
- 2) 新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床判断能力に関する研究
- 3) 医療管理が必要な在宅療養者の看護における看護師の看護技術の現状と課題

- 4) 生きにくさを抱える人たちの文化創造
- 5) ヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築の基盤作成の基礎的研究

本年度の地域課題研究活動総括と今後の方向

開学初年度の地域課題研究活動であり、実態調査が主体のテーマがほとんどであった。また、分科会の中のサブテーマ間のつながりが不明確であり、地域課題研究として今後行政施策に反映させるには途中経過的成果となった。

地域のニーズを適確に判断するために、県内地方自治体と1回の協議会を開催したが、機会が少なかったため、さらに推進していくことが重要であると思われた。また初年度でもあり、地域の研究協力者や共同研究者との連携は第一歩が踏み出されたばかりであった。次年度には、さらに研究協力体制を推し進めていく必要があるといえよう。